

平成20年度第4回心理学教育 FD/IT 活用研究委員会議事概要

- I. 日時 : 平成21年2月26日(木) 午後2時から午後4時まで
- II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者 : 木村委員長、今井副委員長、中原委員、今井委員、大島委員、中澤委員
金子委員
事務局 井端事務局長、森下、恩田

1. 事務局報告

- 昨年11月に委員会でまとめた「分野別学士力」を文部科学省に中間報告として報告した。私情協としては、私学の意見と社会の声を出来るだけ取り入れた、中間報告の位置づけで報告した。今回の報告は、大学教育は資格のためにあるわけではないということで資格に関して意識していない。医学、歯学、薬学の人材育成は、資格と教育が一体化しているので除いていると説明したが、文部省の方でも医学、薬学、歯学は特に検討していないとのことであった。
- 平成21年度は、学問分野の根本になる基礎能力、共通能力についても検討して、より詳細な「学士力」を検討、まとめたい。具体的に心理学でこの基礎能力をどのように折り込むかを検討いただきたい。

2. 学術審議会の動き

昨年の9月から審議が始まり、4回会合が行われている。1月には幹事会議が行われ、3つの分科会を設置して検討が進められている。1つ目が具体的な質保証の枠組みを検討する分科会、2つ目が教養教育、共通教育に関する問題を検討する分科会、3つ目は大学と職業との接続に関する問題を検討する分科会である。

- ① 具体的な質保証枠組みを検討する分科会では質保証を行う具体的な方法論として英国方式の検証と、日本にふさわしい方式を検討している。英国方式とは英国 QAA の分野別のベンチマークを起草にしている。
- ② 教養教育／共通教育に関する問題を検討する分科会では学生層の変化を踏まえ専門教育と相補うかたちの、教養教育／共通教育の具体的内容が検討されている。
- ③ 大学と職業との接続に関する問題を検討する分科会では、就職活動に象徴される、大学教育と職業選択との間に存在する本質的諸問題を検討し検証するとしている。

3. 産学連携について

産業界との連携によるキャリア教育や教員の実務教育力の向上に向け、私情協と経団連が連携して、産学連携人材ニーズ交流会を立ち上げる予定である。概要は、大学と産業界等が相互に人材教育に対する役割・目標などを明確にする中で、教育での問題点・課題などの情報を共有し、連携して問題解決に取り組むことが出来るよう、人材育成に対する意識の共有化を目的としており、具体的には、経営学、会計学、機械工学、経営工学、情報学等の委員会を発足し、実験レベルで行う予定である。

4. 今後の検討スケジュールについて

- これまで各分野で検討した、中間報告を再度検討し、今年の12月頃には最終案をまとめ、学会と連携をはかりながら教育現場の意見を反映できるようにしていく予定。
- 心理学では3つの項目で表現した学士力を見ながら、それを具体的に実践に向けてどう構想していくかというイメージを作りあげていく。
- 心理学の立場で、共通能力の知識、技能、態度を議論し、最終的にはA4二枚程度にまとめる。

5. その他

- 次回委員会開催日 6月20日(土) 午前11時～午後1時まで
- 宿題：次回委員会までに心理学の学士力について単語や項目をあげ、説明文をつけて、マーキングリストで議論し、その結果を検討する。